

迫力の能 子どもが主役

来月31日大津で公演「土蜘蛛」 シテに11歳味方梓さん

「土蜘蛛」の公演に向け、父の味方玄さんの指導を受け、クモの糸を飛ばす梓さん(大津市園城寺町・市伝統芸能会館)



見せ場に難しさ 「同世代興味持つて」

メインキャストをすべて子どもが演じる能楽公演「土蜘蛛」が7月31日、大津市園城寺町の市伝統芸能会館で開催される。夏休みの子どもにも楽しんでもらおうと企画された舞台で、シテ(主役)として「僧」と「土蜘蛛の精」を演じる味方梓さん(11)と「京都市」が意気込みや見どころを語った。

梓さんは、観世流シテ方の味方玄さん(49)の三女。物心つく前から能に親しみ、3歳の時に「鞍馬天狗」の花見で子方と「すこく緊張し、翌日は疲れて

一日中寝てしまった」と振り返る。土蜘蛛は3回目のシテとなる。

土蜘蛛の精が、和紙でできたクモの糸を投げる派手なアクションが一番の見せ場だ。迫力満点の場面が一番難しいといい、「なかなか思い通りのところに飛ばない」と梓さん。玄さんも「投げる糸は大人用で、子ども

はめっちゃ楽しい。能に出会う機会も能楽堂などに限られ、体験する人も少ないのが残念。特別な所作やおもしろい動きもあるし、語りを覚えるのは大

ら手元を見ずに糸を飛ばさないといけない。演技と違うところでの難しさもある」と話す。

土蜘蛛は、前場と後場に分かれており、梓さんは前場では僧、後場では本性を現した土蜘蛛の精を演じる。梓さんはこれまでにも土蜘蛛に子方の胡蝶の役で出演したことがあり「前と後で、どういう風に気持ちを入れ替えるかが大事になってくる」と語る。

現在、小学6年生。中学校に上がっても、能を続ける。「能

変だけど通してできたら『覚えただな』っていう実感もある」

同じクラスの友人も公演を見に来るといい、「口で能を説明するのは難しい。見て、興味持ってくれたらうれしい。夏休みだから、いっぱい子どもにきてほしい」と楽しみにしている。

午後2時開演。3歳以上15歳以下は千円。大人1500円。問い合わせは市伝統芸能会館 ☎077(5227)52336へ。(堀田真由美)



「同世代の子に能への興味を持ってもらいたい」と語る味方梓さん

湖国
ぶんかの森

イベント情報

狂言と落語の会 7月3日午後2時、大津市園城寺町の市伝統芸能会館 能楽ホール ☎077(527)5236。三遊亭圓朝作の落語「死神」と、それをもとに作られた狂言「死神」を上演。S席3500円、A席3千円。

フルートオーケストラ湖笛の会定期演奏会 7月16日午後6時半、栗東市穂2丁目の栗東芸術文化会館さきら大ホール。スメタナのモルダウやチャイコフスキーの弦楽セレナーデなど。3千円。事務局 ☎0748(74)0406。